

街で眠るハクセキレイ



1月30日（土）午後5時20分、夕暮れで薄暗くなる頃、どこからともなくたくさんの鳥たちが一本の街路樹を目指して集まってくる。枝に止まったかと思うと一斉に飛び立ち、そしてまた戻ってくる。これが何回か繰り返された。



5時40分、辺りはかなり暗くなっている。鳥たちはもう飛び立つことはしないが、枝の上はかなり騒がしい。100羽以上はいそうである。カメラを持って上を見上げていると、スーパーの買い物客もつられて街路樹を見上げる。「うわあたくさんいて気持ち悪い」「あれは何?」「コウモリみたい」買い物帰りに降って沸いたような超常現象に遭遇したかのように思い思いの言葉を口にする。しかし、これはハクセキレイが、冬の間、集団ねぐらで夜を過ごすために集まってくる日常なのである。



翌朝7時30分。閑散とした駐車場に人の姿はない。昨夜あれだけいたハクセキレイの姿も全くない。ハクセキレイはすでに目を覚まし、どこかへ飛び立っていたのだ。集団ねぐらの下には多量のフンが落ちており、「駐車禁止」の札が昨夜の喧噪を彷彿とさせる。



日本野鳥の会 栃木県支部の川田裕美さんによると、ハクセキレイの集団ねぐらは、県内でも何カ所かが知られており、県庁前の街路樹が有名だそう。また、全国的に見ると、以前は人目につかない場所をねぐらに利用することが多かったが、最近は繁華街の街路樹やビルの壁面（看板やネオンなど）を利用するが増えているそう。人や車を恐れず、都市環境に適応してきたのである。（唐沢孝一「ネオン街に眠る鳥たち」朝日新聞社）こうしてみると、野生の鳥たちの生活も人間社会と深く関わっており、変化しているのである。

